

「千年王国」

黙 20 : 1～6

1. はじめに

(1) これまでの復習

①大患難時代を扱っているのは6～18章、再臨を扱っているのは19章。

②旧約聖書のメシア預言には2つの流れがあった。

*受難のしもべ（初臨のメシア）と王の王（再臨のメシア）

③再臨のメシアが、地上に千年王国を設立される。

(2) 千年王国論

①千年期前再臨説

*メシアの再臨があって、次に千年王国が設立される。

*その王国は、地上で千年間続く文字通りの政治的王国である。

*キリストが王として聖徒たちとともに全世界を統治される。

②無千年王国説

*地上に文字通りの神の国が出現するわけではない。

*霊的な神の国は、今の時代の教会からなっている。

*神の国とは、キリストが天から信者の心を支配しておられる状態のこと。

*キリストの再臨とともに、すぐに永遠の秩序が始まる。

③千年期後再臨説

*キリストは、千年王国（神の国）が成就した後に再臨される。

*人間の努力によって、理想的な状況（社会の状態）が訪れる。

*教会は、神の国を出現させるための協力者となるべきである。

(3) 黙示録20章の解釈は、旧約預言の解釈を決定づける。

*私たちは、字義通りに解釈した結果、千年期前再臨説を採用している。

2. アウトライン

(1) 悪魔の縛り（1～3節）

(2) 千年王国（4～6節）

3. 結論

(1) 第一の復活

(2) 第二の復活

千年王国について学ぶ。

I. 悪魔の縛り（1～3節）

1. 1節

Rev 20:1 また私は、御使いが底知れぬ所のかぎと大きな鎖とを手に持って、天から下って来るのを見た。

(1) 「また」

- ①ギリシア語の「カイ」である。
- ②黙19:1は、「この後」という言葉から始まった。
- ③黙19章では、「カイ」で始まる節が15もある。
- ④黙20章はその続きで、5節以外の節はすべて、「カイ」で始まっている。
- ⑤つまり、黙19章（再臨）と黙20章（千年王国）は、時間順になっている。

(2) 黙19章では、獣（反キリスト）と偽預言者が裁かれた。

- ①彼らは、「火の池」に投げ込まれた。
- ②次に、再臨のキリストが取り扱うのはサタンである。

(3) サタンを裁くために用いられるのが御使いである。

① 「底知れぬ所のかぎ」

- *アビス（アブソス）を開いたり、閉じたりする鍵である。
- *アビスは、悪霊を一時的に閉じ込めておく場所である。

② 「大きな鎖」

- *サタンを縛るためのものである。

2. 2～3節

Rev 20:2 彼は、悪魔でありサタンである竜、あの古い蛇を捕らえ、これを千年の間縛って、

Rev 20:3 底知れぬ所に投げ込んで、そこを閉じ、その上に封印して、千年の終わるまでは、それが諸国の民を惑わすことのないようにした。サタンは、そのあとでしばらくの間、解き放されなければならない。

(1) 悪魔の呼称

- ①竜（ドゥラコウン）は、悪魔の凶暴な性質を表わす比喻である。
- ②古い蛇（オフィス）は、創世3章に登場する蛇への言及である。
- ③悪魔（ディアボロス）には、敵対する者という意味がある。
- ④サタン（サタナス）には、敵対する者以外に、糾弾する者という意味がある。

(2) 天使の行為

- ①悪魔を捕らえ、千年の間、縛った。
- ②「底知れぬ所」（アブソス）に投げ込んで、そこを閉じ、封印をした。
- ③千年の終わるまでは、閉じ込めたままにした。

(3) サタンの縛りのタイミング

- ①無千年王国説では、初臨の時にサタンの縛りが行われたとされる。
- ②しかし、黙20:1~3は、サタンの縛りは再臨後に起こると教えている。
- ③今の時代も、サタンは活発に動き回っている。
- ④1ペテ5:8

1Pe 5:8 身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。

(4) 千年王国においては、サタンの惑わしや誘惑はなくなる。

- ①イザ2:4

Isa 2:4 主は国々の間をさばき、／多くの国々の民に、判決を下す。／彼らはその剣を鋤に、／その槍をかまに打ち直し、／国は国に向かって剣を上げず、／二度と戦いのことを習わない。

- ②イザ11:3~5

Isa 11:3 この方は【主】を恐れることを喜び、／その目の見るところによってさばかず、／その耳の聞くところによって判決を下さず、

Isa 11:4 正義をもって寄るべのない者をさばき、／公正をもって国の貧しい者のために判決を下し、／口のむちで国を打ち、／くちびるの息で悪者を殺す。

Isa 11:5 正義はその腰の帯となり、／真実はその胸の帯となる。

- ③イザ35:1~2

Isa 35:1 荒野と砂漠は楽しみ、荒地は喜び、／サフランのように花を咲かせる。

Isa 35:2 盛んに花を咲かせ、喜び喜んで歌う。／レバノンの栄光と、／カルメルやシャロンの威光をこれに賜るので、／彼らは【主】の栄光、私たちの神の威光を見る。

(5) 千年王国が終わると、サタンが解き放たれる。

- ①サタンは、神に向かって最後の戦いを挑む。
- ②サタンに従う人々（千年王国の間に誕生した人の中からそういう者が出る）。
- ③神は、直ちに、また最終的に、この反乱を鎮める。
- ④次に、白い御座の裁きが行われる。
- ⑤サタンと罪人たちは、燃える火の池に投げ込まれる。

II. 千年王国 (4~6 節)

はじめに

(1) 千年王国に関する啓示は、たった3節だけである。

①黙示録の目的は、旧約聖書のあちこちに出てくる預言を時間順に並べること。

*大患難時代の説明に13章を要した(6~18章)。

②メシア的王国(千年王国)に関する記述は、時間順に並べる必要がない。

③黙20:4~6は、旧約聖書にない情報を提供してる。

*旧約聖書の預言のクライマックスは、メシア的王国である。

*黙示録の啓示がないなら、メシア的王国が永遠の御国だと誤解してしまう。

*黙示録の啓示によって、メシア的王国が千年間続くことが明らかになった。

*黙20章には、千年という言葉が6回出てくる。

(2) メシアの再臨と千年王国の間には、75日間のインターバルがある。

①ダニ12:11~13

Dan 12:11 常供の燔祭が取り除かれ、荒す憎むべきものが立てられる時から、千二百九十日が定められている。

Dan 12:12 待っていて千三百三十五日に至る者はさいわいです。

Dan 12:13 しかし、終りまであなたの道を行きなさい。あなたは休みに入り、定められた日の終りに立って、あなたの分を受けるでしょう」。

*大患難時代の後半は、3年半(1260日)である。

*大患難時代の後、さらに30日が用意されている(1260+30=1290日)。

*それからさらに、45日が用意されている(1290+45=1335日)。

②これは、千年王国が出来上がるための準備期間である。

*反キリストと偽預言者が火の池に投げ込まれる。

*悪魔が、「底知れぬ所」(アビス)に閉じ込められる。

*生きている異邦人が、裁かれる(羊と山羊の選別)。

*旧約時代の聖徒たちと、大患難時代の殉教者たちが復活する。

・ダニ12:2、イザ26:19参照。

*ダビデの王座が確立される。

*小羊の婚宴が開かれる。

1. 4節a

Rev 20:4a また私は、多くの座を見た。彼らはその上にすわった。そしてさばきを行う権威が彼らに与えられた。

(1) 多くの座に座る人たちとは、誰か。

①12使徒

Luk 22:30 それであなたがたは、わたしの国でわたしの食卓に着いて食事をし、王座に着いて、イスラエルの十二の部族をさばくのです。

②教会

1Co 6:2 あなたがたは、聖徒が世界をさばくようになることを知らないのですか。世界があなただがたによってさばかれるはずなのに、あなたがたは、ごく小さな事件さえもさばく力が無いのですか。

*12使徒は教会に含まれている。

③この座に座る者たちには、さばきを行う権威が与えられた。

2. 4節b

Rev 20:4b また私は、イエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たちのたましいと、獣やその像を拝まず、その額や手に獣の刻印を押されなかった人たちを見た。彼らは生き返って、キリストとともに、千年の間王となった。

(1) 次にヨハネは、大患難時代の殉教者たちのたましいを見た。

①「イエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たち」とは、大患難時代の前半の殉教者たちである。

②「獣やその像を拝まず、その額や手に獣の刻印を押されなかった人たち」とは、大患難時代の後半の聖徒たちである。

(2) 彼らは復活し、千年の間、キリストとともに統治した。

①「王となった」と訳されている言葉は、「統治した」、「支配した」という意味。

3. 5節a

Rev 20:5a そのほかの死者は、千年の終わるまでは、生き返らなかった。

(1) 5節をひとくくりにして読んではならない。

①5節aは、挿入句である。

②罪人は、千年王国が終わるまでは、復活しないという意味である。

③罪人たちは、白い御座の裁きを受けるために復活する。

4. 5節b~6節

Rev 20:5b これが第一の復活である。

Rev 20:6 この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに

に、千年の間王となる。

- (1) 第一の復活は、義人の復活である。
 - ①第一の復活にあずかる者は、幸いな者、聖なる者である。
 - ②永遠にキリストの御前に出ることができる（祭司は、仲介者を必要としない）。
 - ③千年の間、キリストとともに統治する。
- (2) 第二の死は、なんの力も持っていない。
 - ①第一の死は、肉体の死である。魂と肉体の分離である。
 - ②第二の死は、神との永遠の分離である（燃える火の池）。

結論：

1. 第一の復活

(1) ダニ 12 : 2

Dan 12:2 地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者が目をさます。ある者は永遠のいのちに、ある者はそしりと永遠の忌みに。

- ①永遠のいのちへの復活と、そしりと永遠の忌みへの復活の2つがある。
- ②その間には、千年の時間差がある。
- (2) 第一の復活は、信者の復活である。
 - ①主イエスの復活は、「初穂」である（1 コリ 15 : 20）。
 - ②携挙の時に起こる、教会時代の聖徒たちの復活（1 テサ 4 : 16）
 - ③大患難時代の間中期に起こる、2人の証人たちの復活（黙 11 : 11）
 - ④再臨後に起こる、旧約時代の聖徒たちの復活（イザ 26 : 19、ダニ 12 : 2）
 - ⑤再臨後に起こる、大患難時代の殉教者たちの復活（黙 20 : 4）

2. 第二の復活

(1) ヨハ 5 : 28~29

Joh 5:28 このことに驚いてはなりません。墓の中にいる者がみな、子の声を聞いて出て来る時が来ます。

Joh 5:29 善を行った者は、よみがえっていのちを受け、悪を行った者は、よみがえってさばきを受けるのです。

- ①これは、裁きのための復活である。
- (2) 黙 20 : 11~15 に、白い御座の裁きが出てくる。
 - ①第二の復活は、この裁きを受けるための復活である。
 - ②その後、火の池に投げ込まれる。